

(2) 児童生徒質問紙

① 家庭での生活習慣

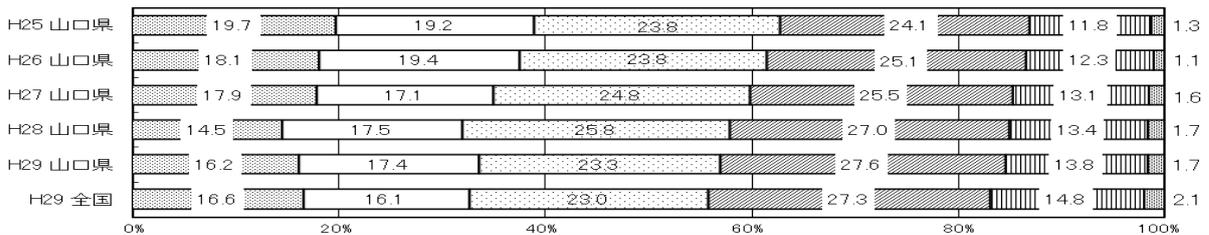
ア 平日のテレビ等の視聴時間

- 平日1日当たり2時間以上テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりすると回答した児童生徒の割合は、年々減少しているが、小学校児童の割合は全国に比べて依然として高い。4時間以上テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりする児童は16.2%、生徒は10.1%いる。

☞ テレビ等の視聴時間に関する家庭のルール作りを推奨する等、引き続き、家庭との連携・協力を強めていく必要がある。

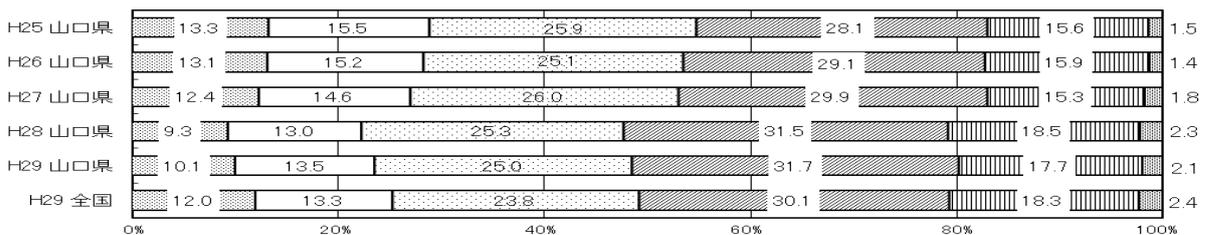
【小学校】 (12) 普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか

□1 4時間以上 □2 3時間～4時間 □3 2時間～3時間 □4 1時間～2時間 □5 1時間より少ない □6 全くしない



【中学校】 (12) 普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか

□1 4時間以上 □2 3時間～4時間 □3 2時間～3時間 □4 1時間～2時間 □5 1時間より少ない □6 全くしない



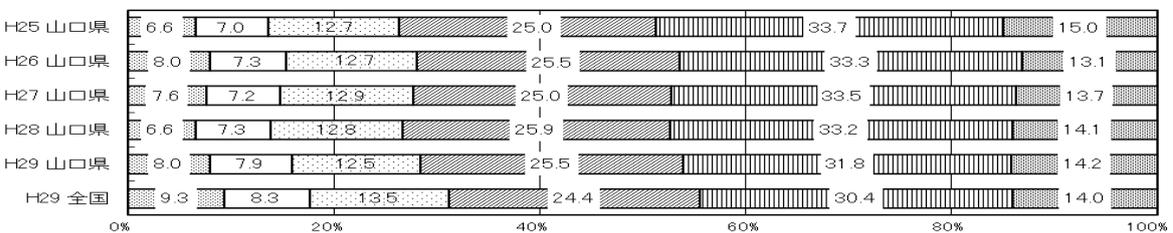
イ 平日のテレビゲームの時間

- 平日1日当たり1時間以上テレビゲームをする児童生徒の割合は、全国に比べて低いものの、小学校、中学校ともに過去5年で最も高く、児童より生徒の割合が高い。

☞ テレビゲームに関する家庭のルール作りを推奨する等、引き続き、家庭との連携・協力を強めていく必要がある。

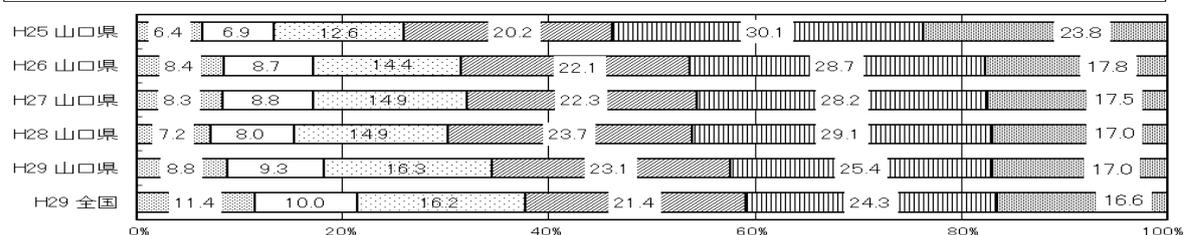
【小学校】 (13) 普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか

□1 4時間以上 □2 3時間～4時間 □3 2時間～3時間 □4 1時間～2時間 □5 1時間より少ない □6 全くしない



【中学校】 (13) 普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか

□1 4時間以上 □2 3時間～4時間 □3 2時間～3時間 □4 1時間～2時間 □5 1時間より少ない □6 全くしない

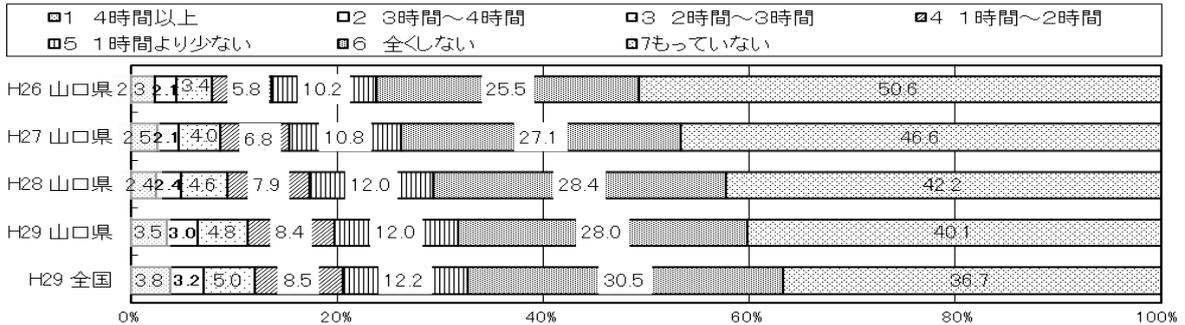


ウ 平日の携帯やスマートフォンでのインターネット利用時間

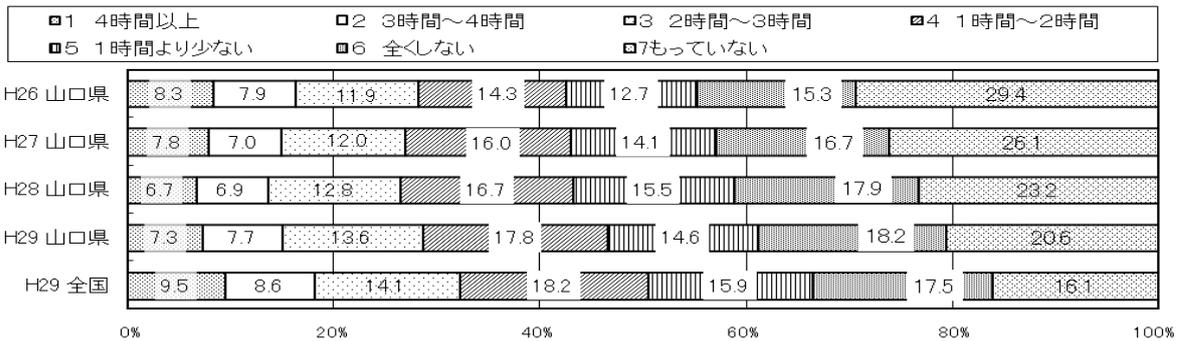
● 平日1日当たり1時間以上、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする児童生徒の割合は、全国に比べて低いものの、年々増加している。また、「もっていない」と回答する児童生徒の割合は、年々減少している。

☞ 平日1日当たり携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間が少ないほど、教科の平均正答率が高い傾向が見られる。小学生は約6割、中学生は約8割の児童生徒が、携帯電話やスマートフォンを利用していることから、使い方に関する家庭のルール作りを推奨する等、引き続き、家庭との連携・協力を強めていく必要がある。

【小学校】 (14) 普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか

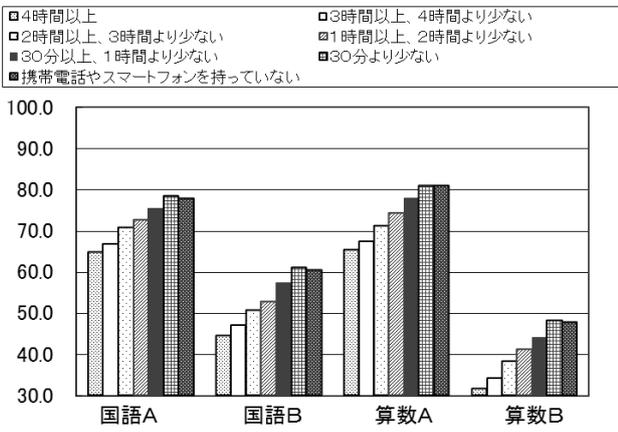


【中学校】 (14) 普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか

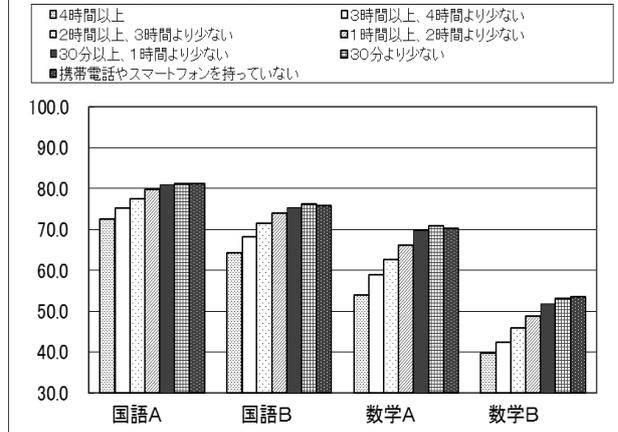


[教科の正答率との関係]

【小学校】 平日、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間(1日あたり)



【中学校】 平日、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間(1日あたり)

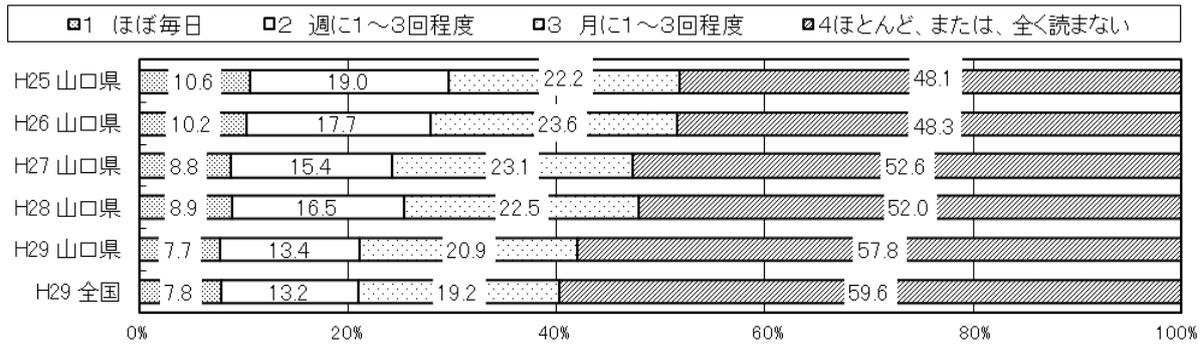


エ 新聞を読んでいる

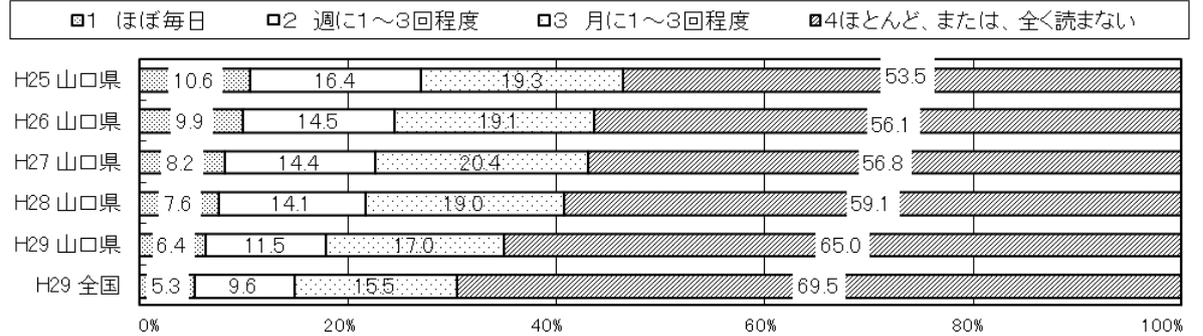
- 新聞をほとんど、または、全く読まないと回答した児童生徒の割合は、全国に比べて低いものの増加しており、全く読まない中学校の生徒の割合は、小学校の児童の割合より多い。

☞ 新聞をよく読んでいる児童生徒の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られることから、活字に触れる、情報を選択する、社会の動きに関心をもつなど、新聞の効果を活用する取組や効果を家庭と共有する必要がある。

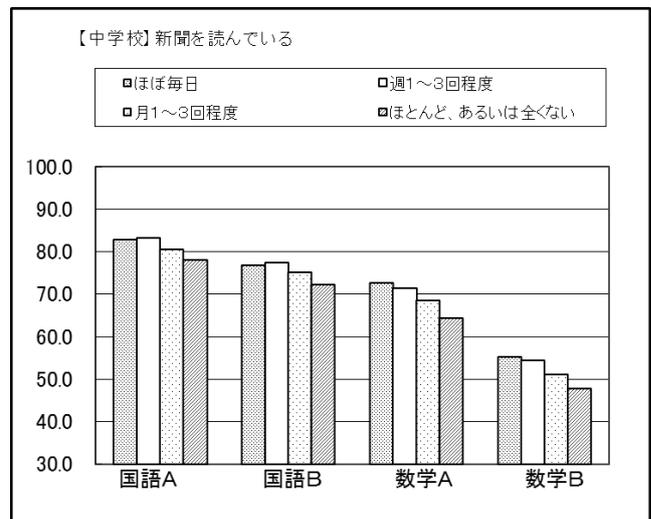
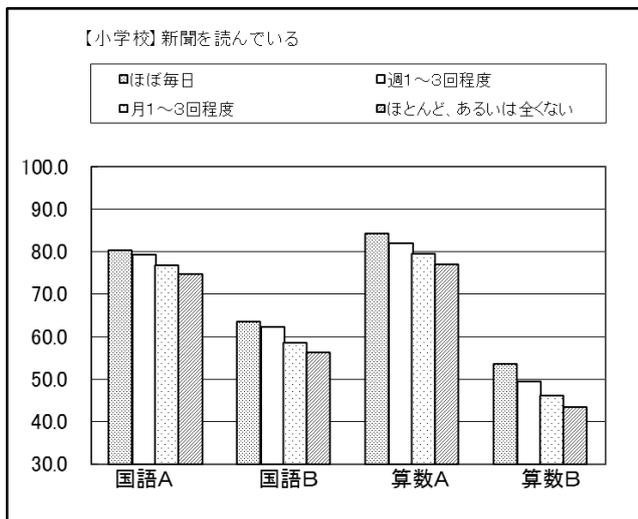
【小学校】 (45)新聞を読んでいますか



【中学校】 (47)新聞を読んでいますか



[教科の正答率との関係]



② 家庭での学習習慣

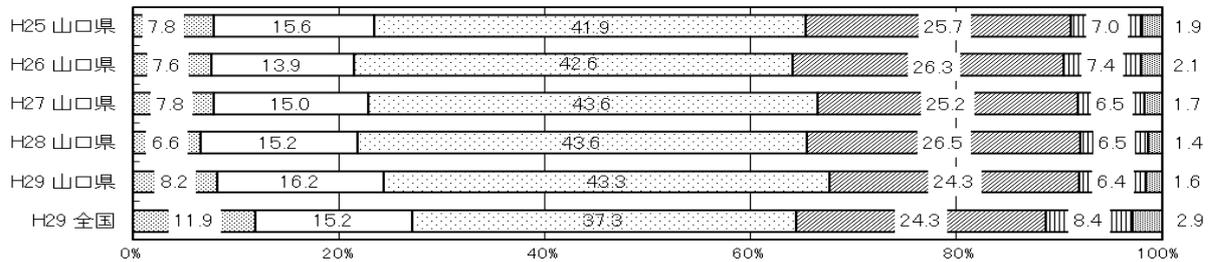
ア 平日の学習時間

- 学校の授業時間以外に、平日、1日あたりに1時間以上学習する児童生徒の割合は、増加傾向にあるものの、2時間以上の割合は低い。全く勉強しないと回答した小学校の児童の割合は1.6%、中学校の生徒の割合は2.8%である。

☞ 平日に、一定時間以上、学習する児童生徒の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られる。今後も引き続き、家庭との連携・協力を密にし、平日の限られた時間を工夫しながら家庭学習に取り組む習慣を定着させていくとともに、学習する内容の質的向上を図る指導を行う必要がある。

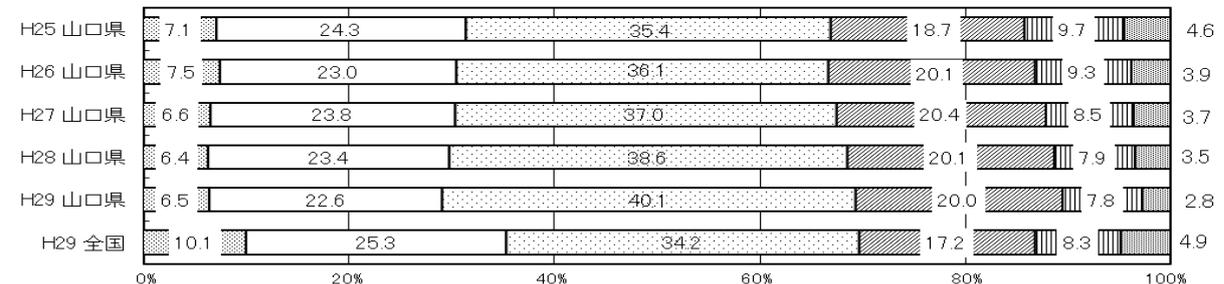
【小学校】 (15) 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか

□1 3時間以上 □2 2時間～3時間 □3 1時間～2時間 □4 30分～1時間 □5 30分より少ない □6 全くしない



【中学校】 (15) 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか

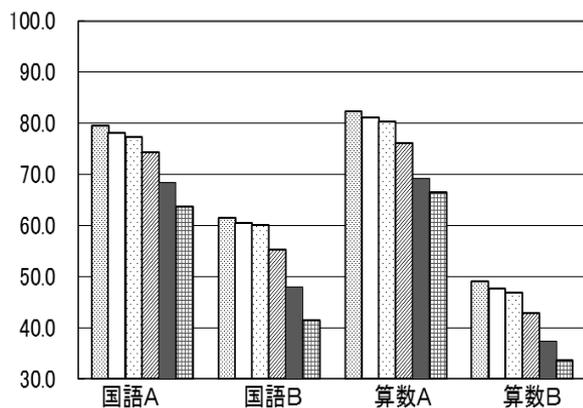
□1 3時間以上 □2 2時間～3時間 □3 1時間～2時間 □4 30分～1時間 □5 30分より少ない □6 全くしない



[教科の正答率との関係]

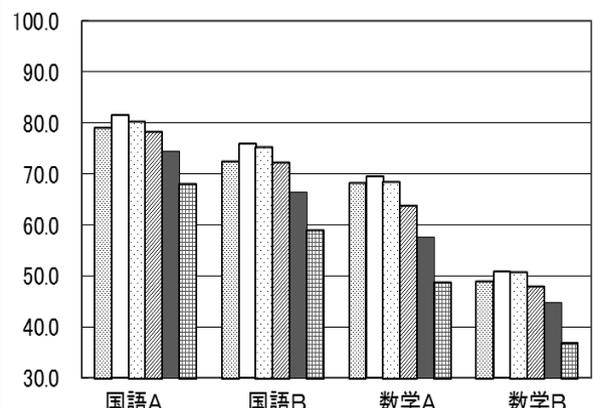
【小学校】平日の勉強時間(1日当たり・学校の授業時間以外)

□3時間以上 □2時間以上、3時間より少ない
 □1時間以上、2時間より少ない □30分以上、1時間より少ない
 ■30分より少ない □全くしない



【中学校】平日の勉強時間(1日当たり・学校の授業時間以外)

□3時間以上 □2時間以上、3時間より少ない
 □1時間以上、2時間より少ない □30分以上、1時間より少ない
 ■30分より少ない □全くしない

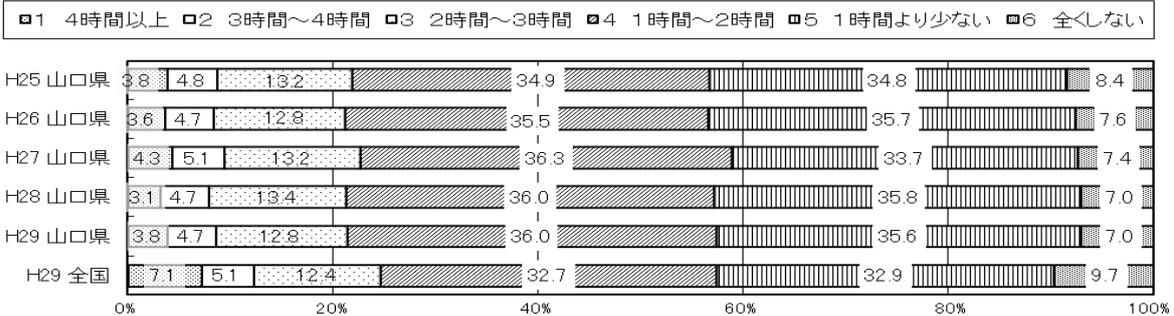


イ 休日の学習時間

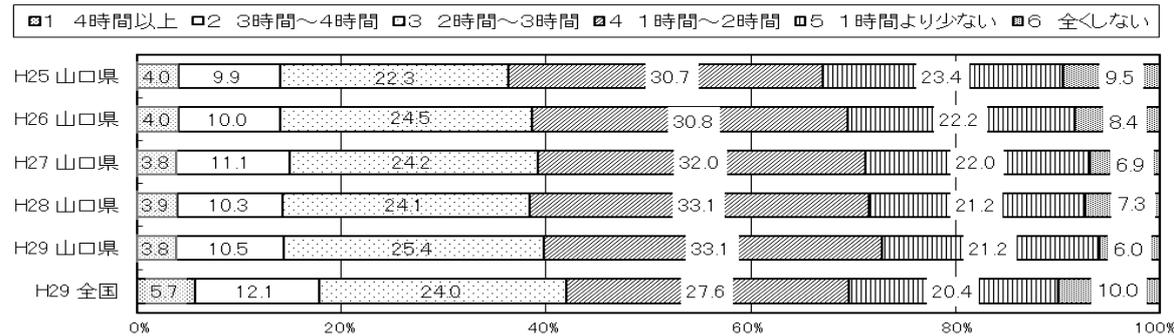
- 学校の授業時間以外に、休日、1日あたりに1時間以上学習する児童生徒の割合は、増加傾向にあるものの、2時間以上の割合は全国に比べて低い。全く勉強しない小学校の児童の割合は7.0%、中学校の生徒の割合は6.0%である。

☞ 休日に、一定時間以上学習する児童生徒の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られることから、今後も、家庭との連携・協力を密にし、休日の過ごし方等の情報交換を行うとともに、家庭学習習慣の定着を図るとともに、学習する内容の質的向上を図る必要がある。

【小学校】 (16) 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか

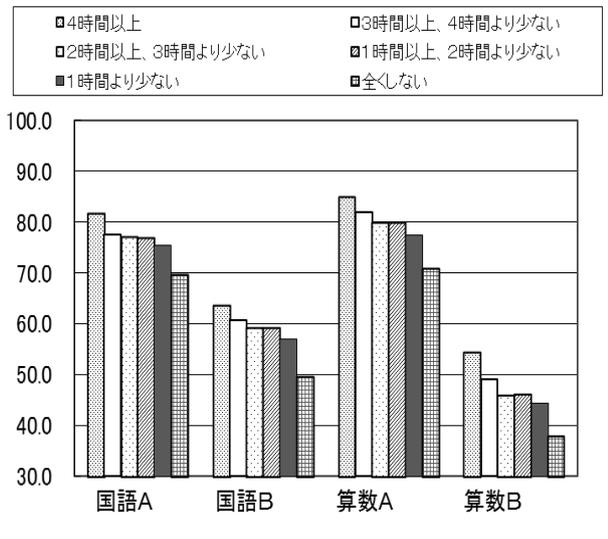


【中学校】 (16) 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか

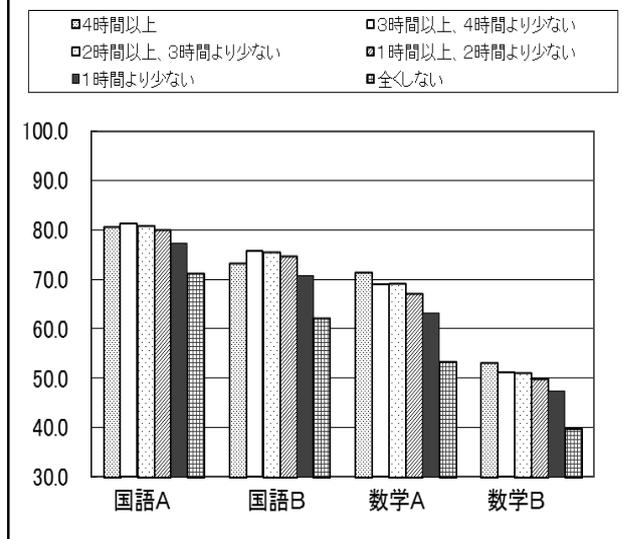


[教科の正答率との関係]

【小学校】休日の勉強時間(1日当たり)



【中学校】休日の勉強時間(1日当たり)



ウ 自分で計画を立てて勉強している

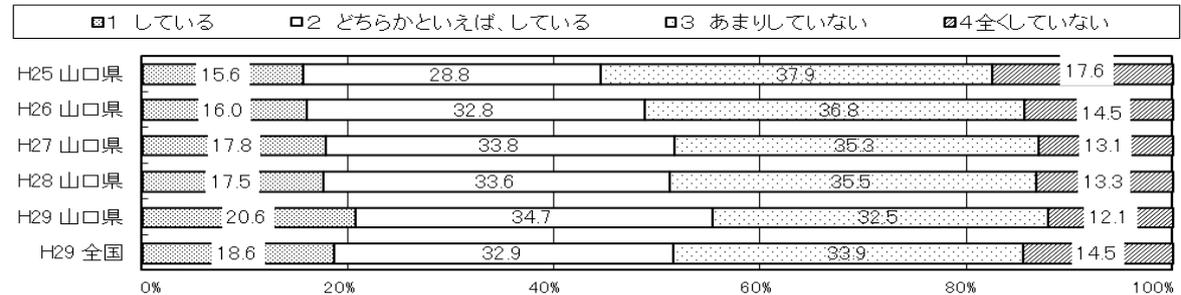
○ 家で、自分で計画を立てて勉強していると回答した児童生徒の割合は、全国に比べて高い。

☞ 引き続き、学校で具体的な計画の立て方を示すことなどにより、見通しをもって学習する習慣の確立を図ることが必要である。

【小学校】 (29) 自分で計画を立てて勉強している



【中学校】 (31) 自分で計画を立てて勉強している

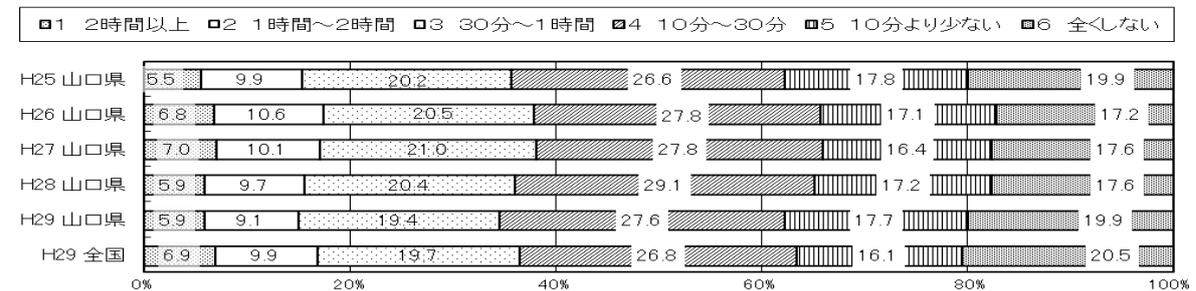


エ 平日の読書時間

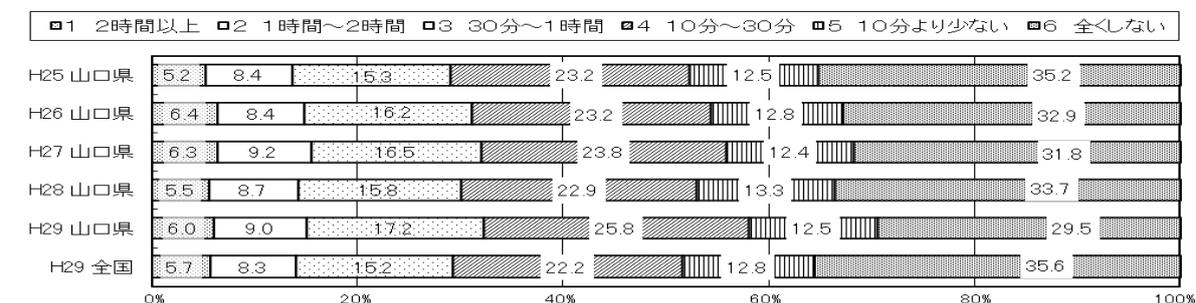
● 平日に読書をする小学校の児童の割合は、年々減少しており、全国と比べても低い。全く読書しない小学校の児童の割合は19.9%、生徒の割合は29.5%である。

☞ 学校の朝読書の時間などを活用し、活字に触れ、読書の楽しさを味わわせる取組の工夫を行うとともに、家庭と情報共有し、連携して読書習慣の確立を図る必要がある。

【小学校】 (18) 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか



【中学校】 (18) 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか



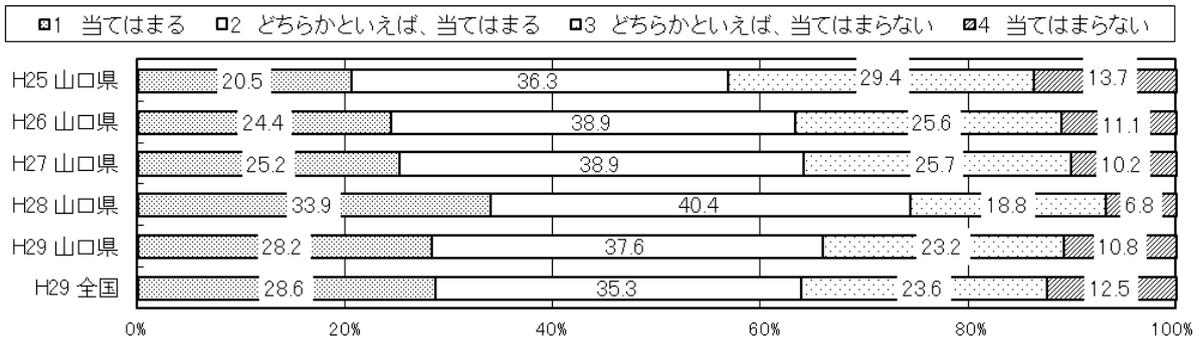
③ 地域との関わり

ア 地域や社会の出来事に関心がある

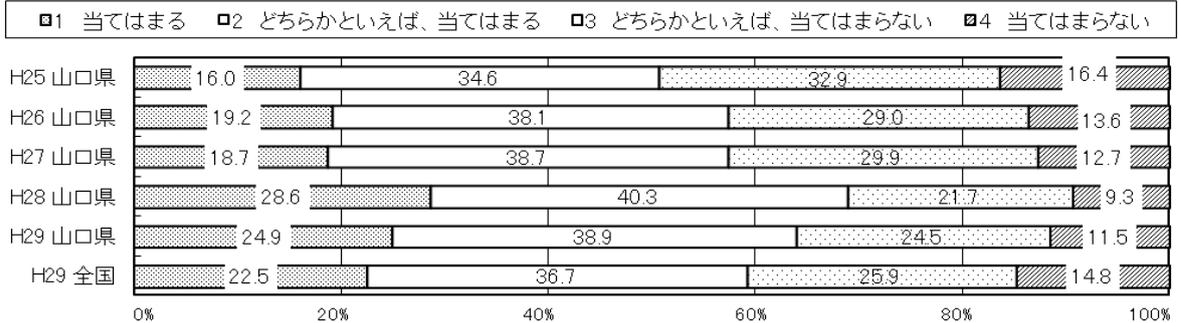
○ 地域や社会の出来事に関心があると回答した児童生徒の割合は、全国に比べて高い。

☞ 地域や社会で起こっている出来事に関心があると肯定的に回答した児童生徒の方が、全ての教科の平均正答率が高い傾向が見られる。今後も、コミュニティ・スクールの仕組み等を活用して、地域を身近に感じ、様々な出来事に関心をもたせるよう、地域とのつながりを大切にした指導の充実が求められる。

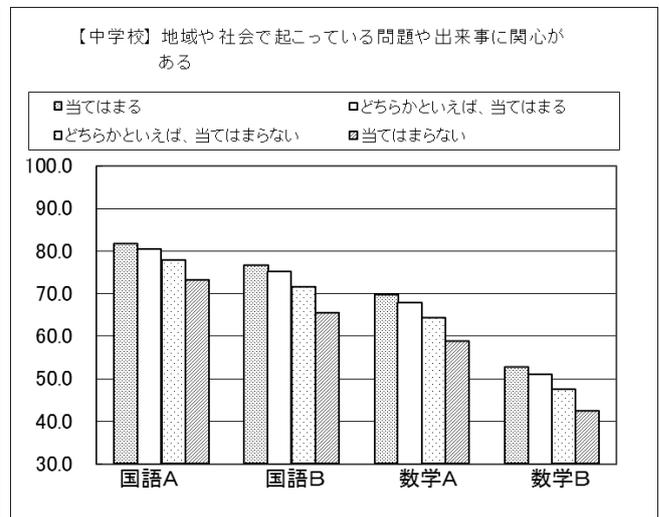
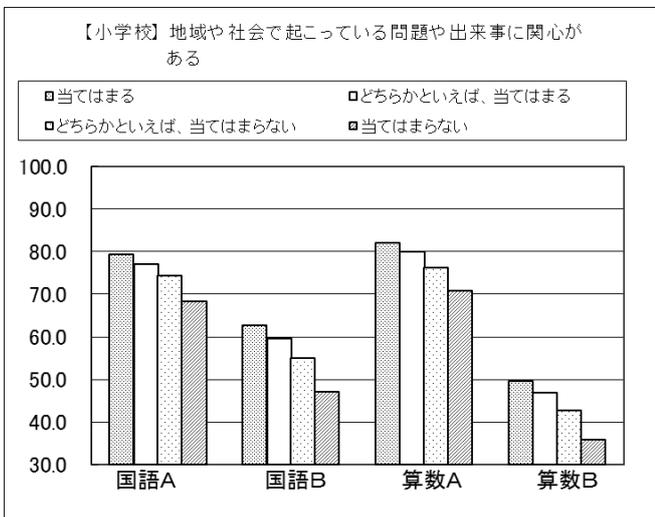
【小学校】 (41) 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある



【中学校】 (43) 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある



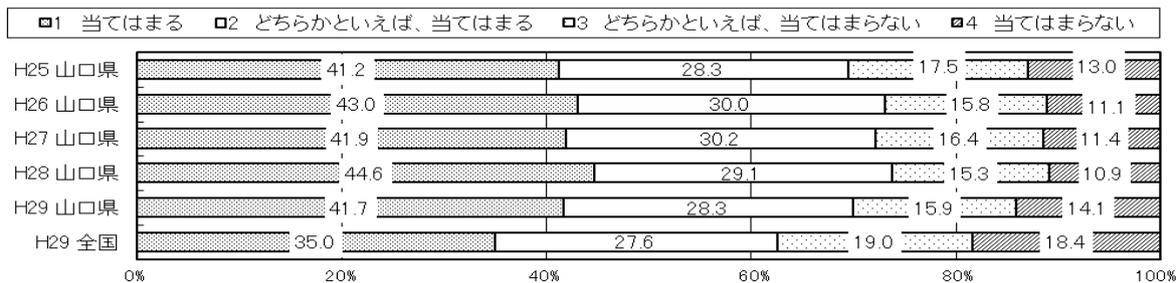
[教科の正答率との関係]



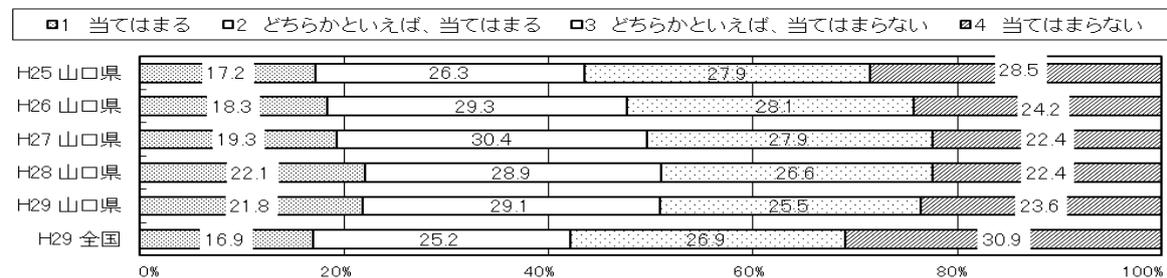
イ 地域行事への参加

- 今住んでいる地域の行事に参加していると回答した児童生徒の割合は、全国に比べて高い。
- ☞ コミュニティ・スクールの仕組み等を活用して、地域にどのような行事があるかを伝えるなど、今後も地域とのつながりを大切にし、地域の活性化を図る指導の充実が求められる。

【小学校】 (40) 今住んでいる地域の行事に参加している



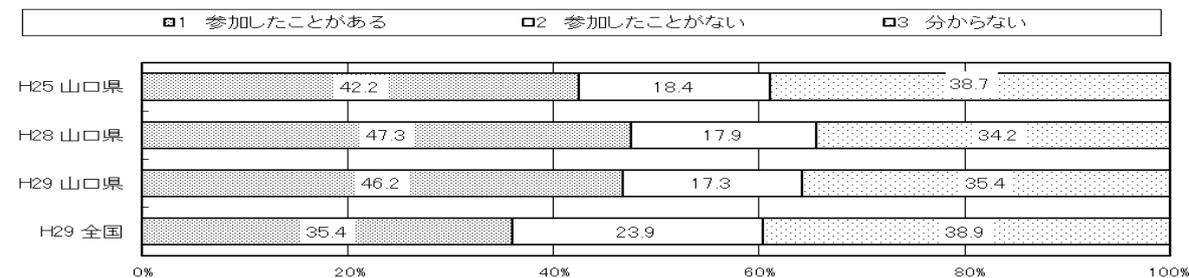
【中学校】 (42) 今住んでいる地域の行事に参加している



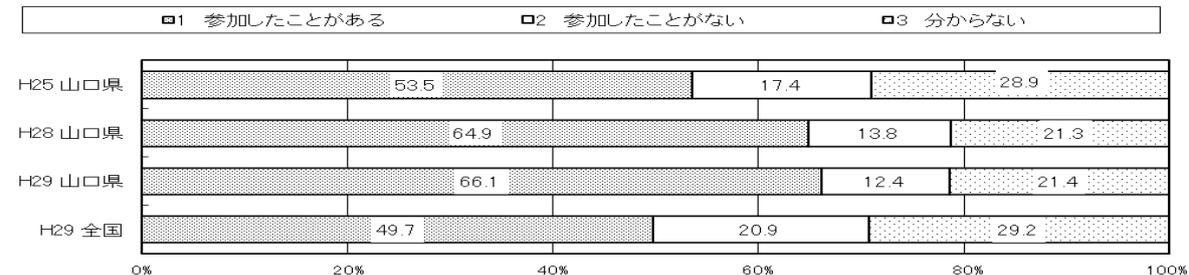
ウ 地域でのボランティア活動への参加

- 地域社会などでボランティア活動に参加したことがあると回答した児童生徒の割合は、全国に比べて高い。
- ☞ コミュニティ・スクールの仕組み等を活用して、地域とのつながりを大切にし、地域貢献の意識を高める指導の充実が求められる。

【小学校】 (43) 地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか



【中学校】 (45) 地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか



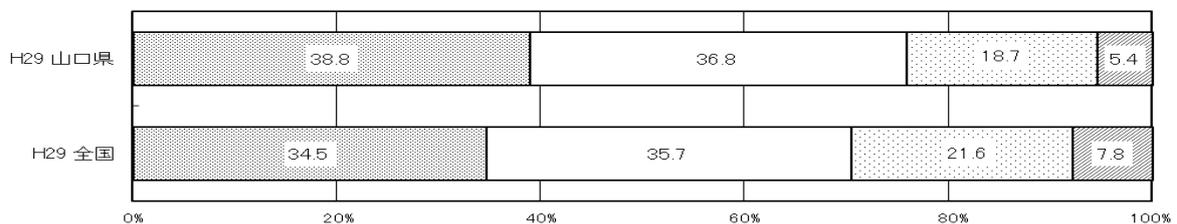
エ 授業等で地域のことを調べたり地域の人と関わったりする機会

○ 授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと回答した児童生徒の割合は、全国に比べて高い。

☞ 地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと肯定的に回答した小学校の児童の方が、全ての教科の平均正答率が高い。一方で、中学校の生徒には、必ずしもその傾向が見られない。今後、コミュニティ・スクールの仕組み等を活用して、地域のもの・人とのつながりを大切にし、地域とともにある学校づくりを推進していくとともに、「何を学ぶか」を明確にした上で、地域の人的・物的資源等を活用しながら「社会に開かれた教育課程」の実現を目指す必要がある。

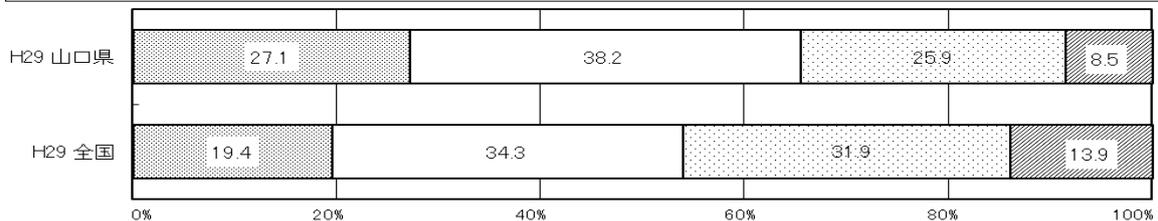
【小学校】 (65) 授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思う

□1 当てはまる □2 どちらかといえば、当てはまる □3 どちらかといえば、当てはまらない □4 当てはまらない



【中学校】 (67) 授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思う

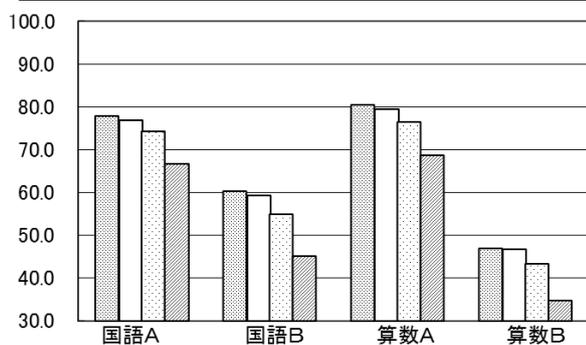
□1 当てはまる □2 どちらかといえば、当てはまる □3 どちらかといえば、当てはまらない □4 当てはまらない



[教科の正答率との関係]

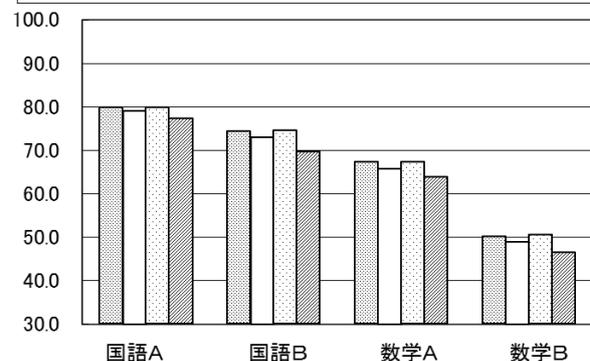
【小学校】 授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があった

□当てはまる □どちらかといえば、当てはまる
□どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない



【中学校】 授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があった

□当てはまる □どちらかといえば、当てはまる
□どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない

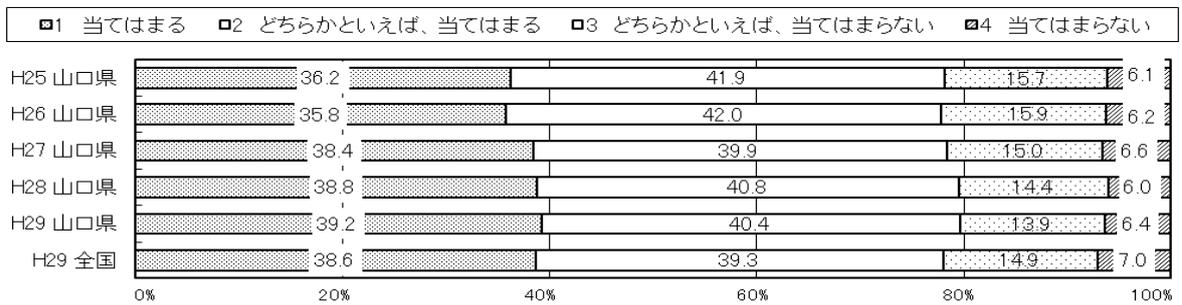


④ 子どもたちの意識

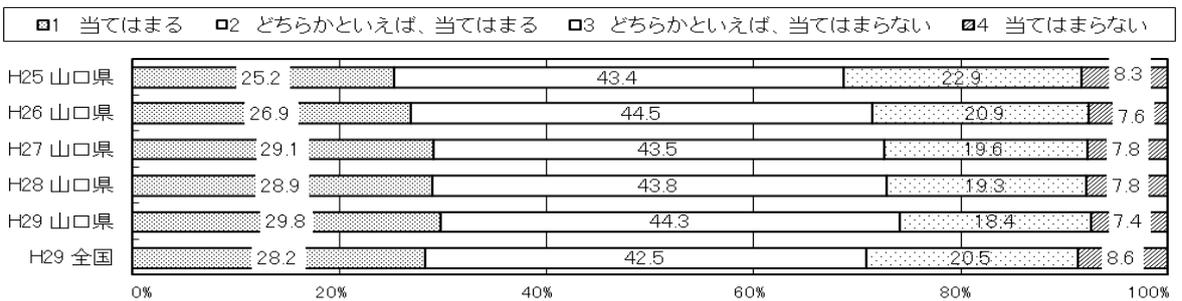
ア 自分にはよいところがある

- 自分にはよいところがあると思うと回答した児童生徒の割合は、全国に比べると高い。
 - 一方で、肯定的な回答をしなかった小学校の児童の割合は20.3%、中学校の生徒の割合は25.8%であり、依然として高い割合である。
- ☞ 肯定的に回答した小学校の児童の方が、教科の平均正答率が高い傾向がある。一方で、中学校の生徒には必ずしもその傾向は見られない。今後、教員や保護者、地域住民等の多様な大人たちとのかかわりにより、子どもたち一人ひとりのよさを具体的に認めたり、適切に評価したりする指導や場の一層の充実により、子どもが自己存在感を感じられるようになるとともに、全ての教科等において「学びに向かう力・人間性」の涵養に資することが望まれる。

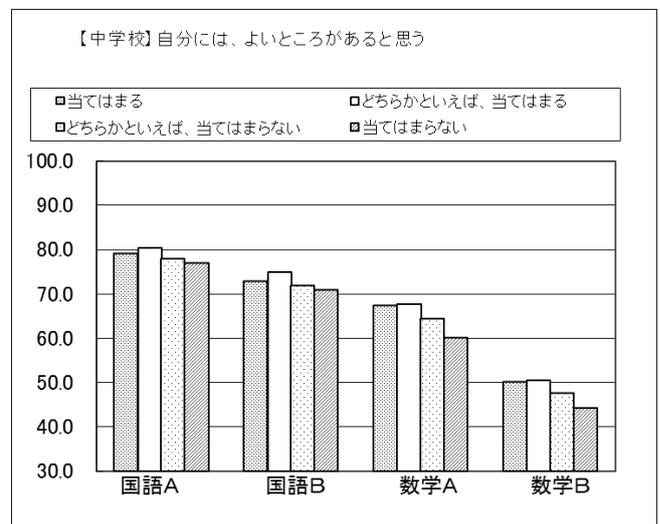
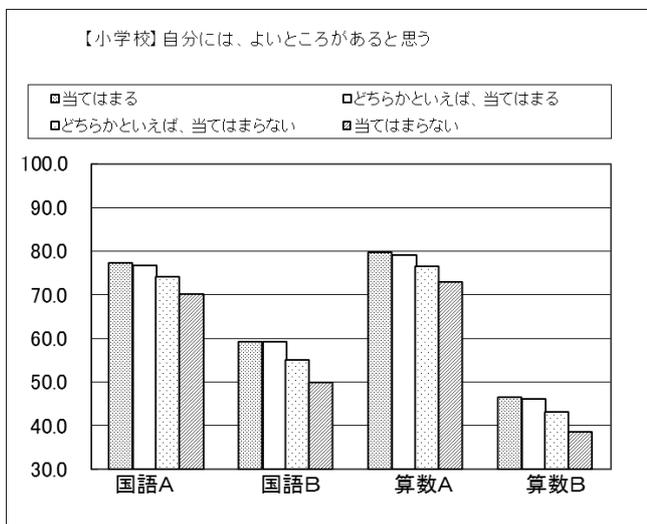
【小学校】 (6)自分には、よいところがあると思う



【中学校】 (6)自分には、よいところがあると思う



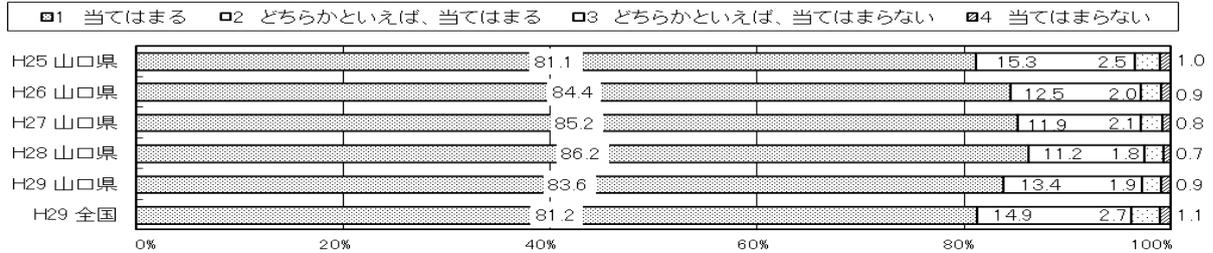
[教科の正答率との関係]



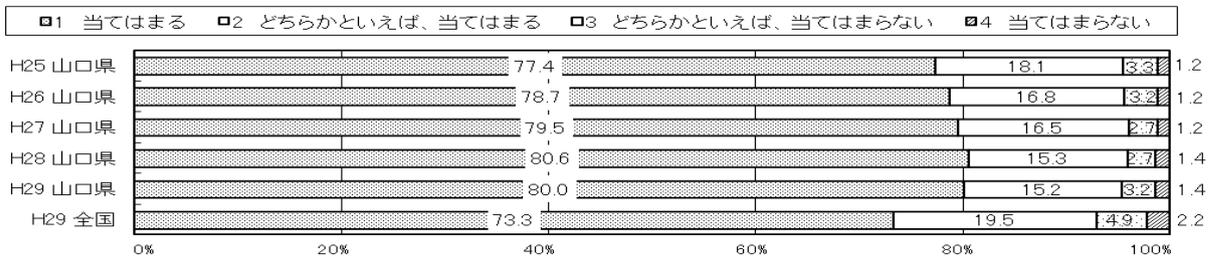
イ いじめは絶対にいけない

- いじめはどんな理由があってもいけないことだと思うと回答した児童生徒の割合は、全国に比べて高い。
- 一方で、「当てはまる」と回答した児童生徒は減少しており、「当てはまらない」と回答した小学校の児童の割合は0.9%、中学校の生徒の割合は1.4%である。
- ☞ 全ての児童生徒が、いじめはどんな理由があってもいけないという認識をもつことが重要であることから、今後も、道徳教育の充実をはじめ、心の教育の推進を継続して図る必要がある。

【小学校】 (52) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う



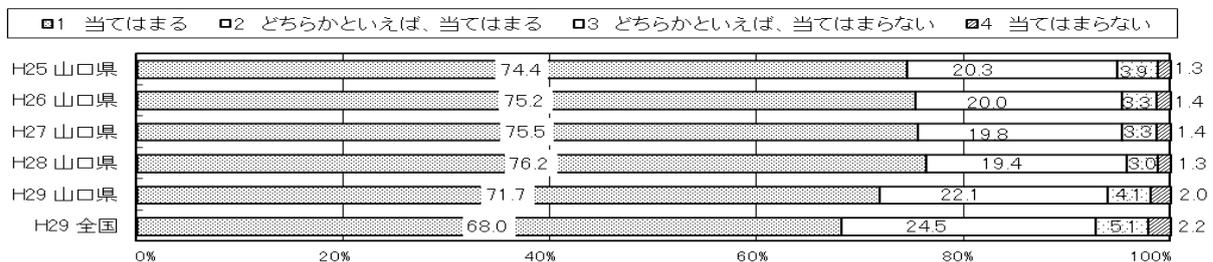
【中学校】 (54) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う



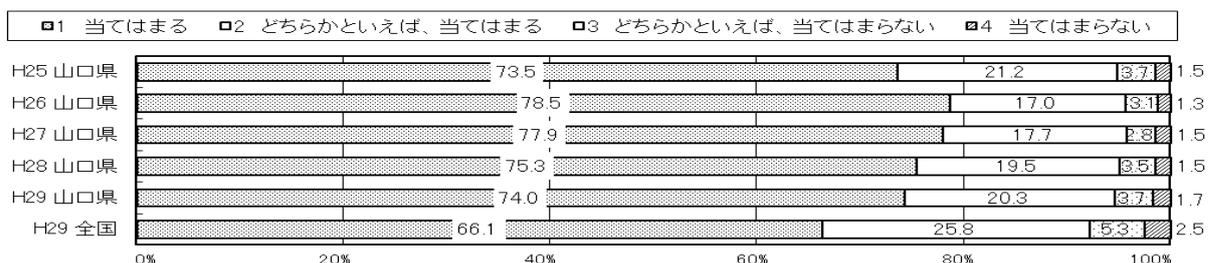
ウ 人の役に立つ人間になりたい

- 人の役に立つ人間になりたいと思うと回答している児童生徒の割合は、全国と比べて高いものの、いずれも昨年度より減少し、中学校の生徒の割合は減少傾向が見られる。肯定的な回答をしなかった小学校の児童の割合は6.1%、中学校の生徒の割合は5.4%である。
- ☞ 今後、道徳科の授業改善や様々な体験活動の充実をはじめ、コミュニティ・スクールの仕組み等を活用しながら、児童生徒の自己有用感を高める指導の充実を図る必要がある。

【小学校】 (53) 人の役に立つ人間になりたいと思う



【中学校】 (55) 人の役に立つ人間になりたいと思う

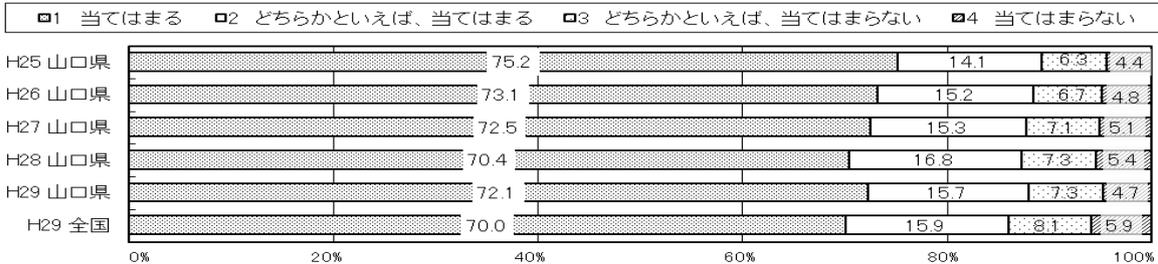


エ 将来の夢や目標をもっている

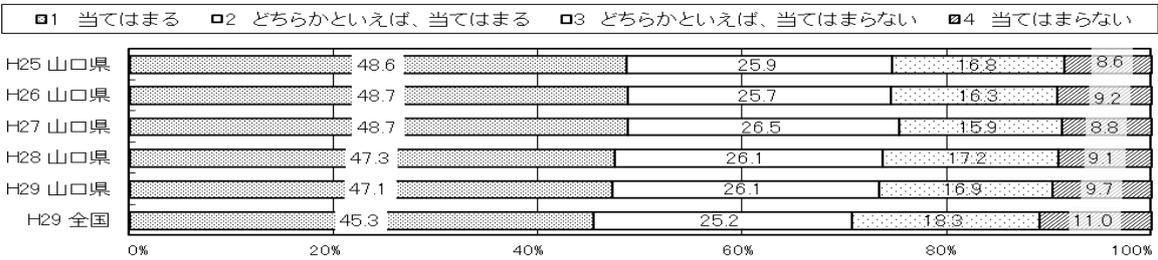
- 将来の夢や目標を持っていると回答している児童生徒の割合は、全国に比べて高いものの、中学校の生徒の割合は減少傾向が見られる。肯定的な回答をしなかった小学校の児童の割合は12.0%、中学校の生徒の割合は26.6%である。

☞ 本県のめざす「やまぐちっ子のすがた」である「高い志をもち、未来に向かって挑戦し続ける人」を育てるために、今後も、キャリア教育の一層の充実を図ることが必要である。

【小学校】 (10) 将来の夢や目標をもっている



【中学校】 (10) 将来の夢や目標をもっている

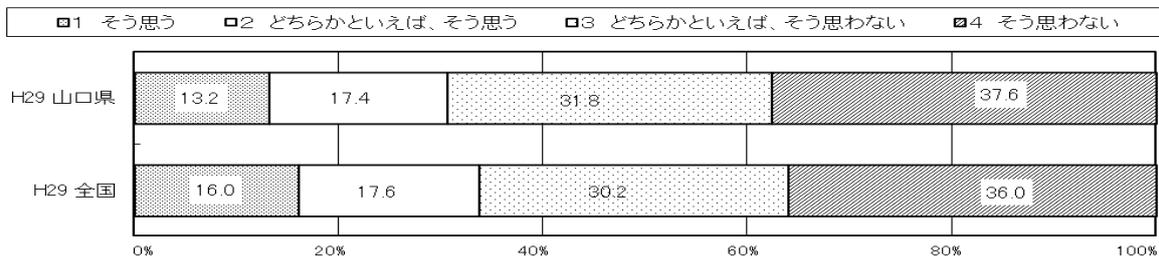


オ 外国への興味

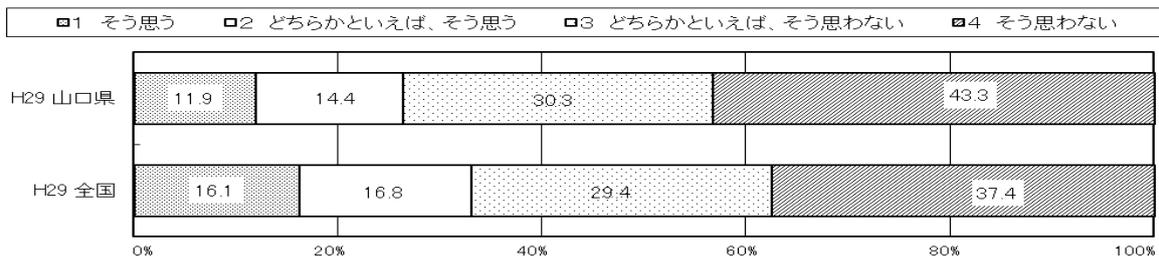
- 将来、外国に留学したり、国際的な仕事に就いたりしてみたいと回答している児童生徒の割合は、全国に比べて低い。肯定的な回答をしなかった小学校の児童の割合は69.4%、中学校の生徒の割合は73.6%である。

☞ 郷土への愛着や誇りを一層高めていくためにも、より広いグローバルな視点で、社会に関わっていかうとする意識の醸成を図ることが必要である。

【小学校】 (48) 将来、外国に留学したり、国際的な仕事に就いたりしてみたいと思う



【中学校】 (50) 将来、外国に留学したり、国際的な仕事に就いたりしてみたいと思う



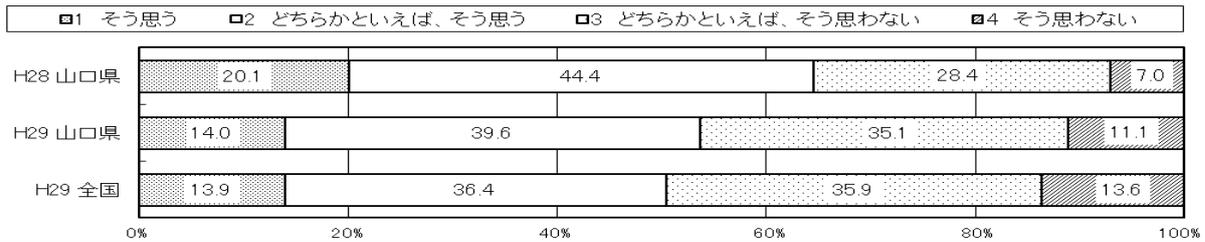
⑤ 学校での活動

ア 自分とは異なる意見や少数意見を尊重

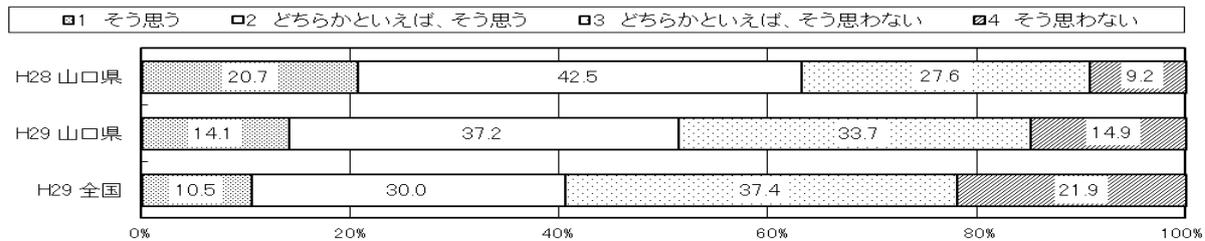
- 話し合い活動で、自分とは異なる意見や少数意見のよさを生かしたり、折り合いをつけたりして話し合い、意見をまとめていると回答した児童生徒の割合は、全国に比べて高いものの、昨年度の肯定的な回答より減少している。

☞ 話し合い活動の経験を重ねることで、話し合うことのよさや相手の意見を尊重する意識が養われると考えられることから、今後も、発達の段階に応じて、全ての学年の児童生徒が活発に意見を交わせる話し合いの場の設定と学級風土の醸成に取り組む必要がある。

【小学校】 (36) 話し合い活動で、自分とは異なる意見や少数意見のよさを生かしたり、折り合いをつけたりして話し合い、意見をまとめている



【中学校】 (38) 話し合い活動で、自分とは異なる意見や少数意見のよさを生かしたり、折り合いをつけたりして話し合い、意見をまとめている

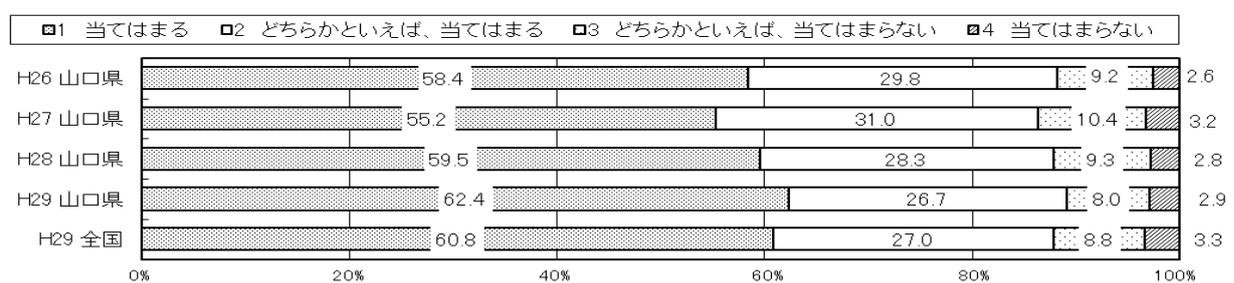


イ みんなで協力してやり遂げ、うれしかった

- 学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがあると回答した児童生徒の割合は、全国に比べて高い。

☞ 引き続き、計画的・意図的に協働的な活動場面を設定するなどの工夫をするとともに、児童生徒が成就感や連帯感を得られるための指導が必要である。

【小学校】 (37) 学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある



【中学校】 (39) 学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある

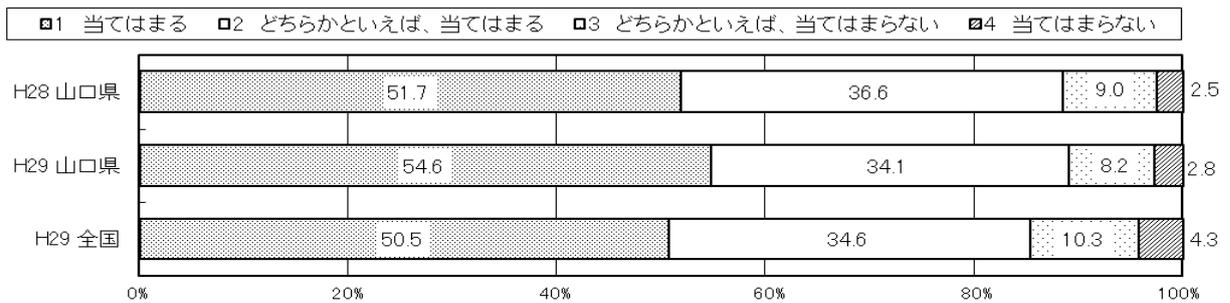


ウ 先生は分かるまで教えてくれる

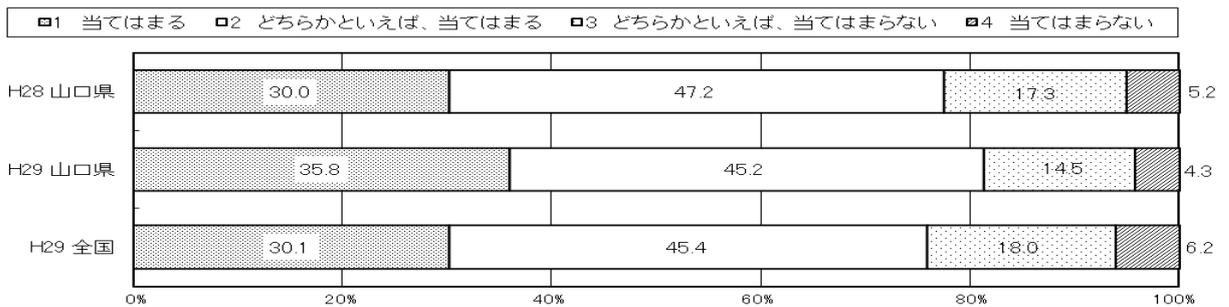
○ 先生は間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれると回答した児童生徒の割合は、全国に比べて高い。

☞ 肯定的に回答した児童生徒の方が、全ての教科の平均正答率が高い傾向が見られる。引き続き、子どもたち一人ひとりに対するきめ細かな指導を充実させ、教員の指導に対する信頼を高めていくことが必要である。

【小学校】 (39) 先生は間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれる

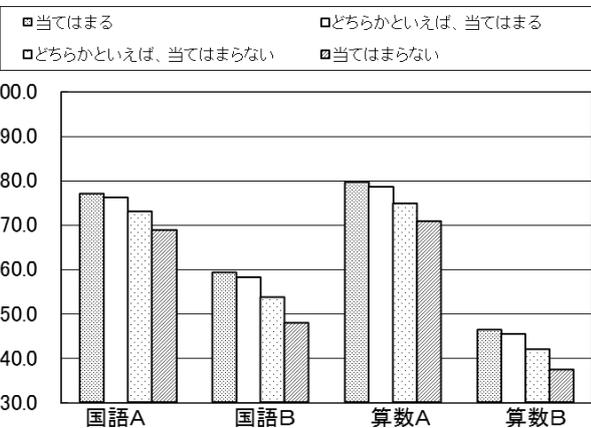


【中学校】 (41) 先生は間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれる

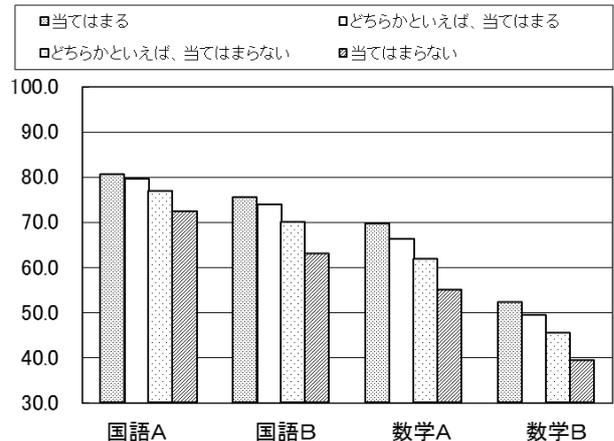


[教科の正答率との関係]

【小学校】先生は、間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれる



【中学校】先生は、間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれる

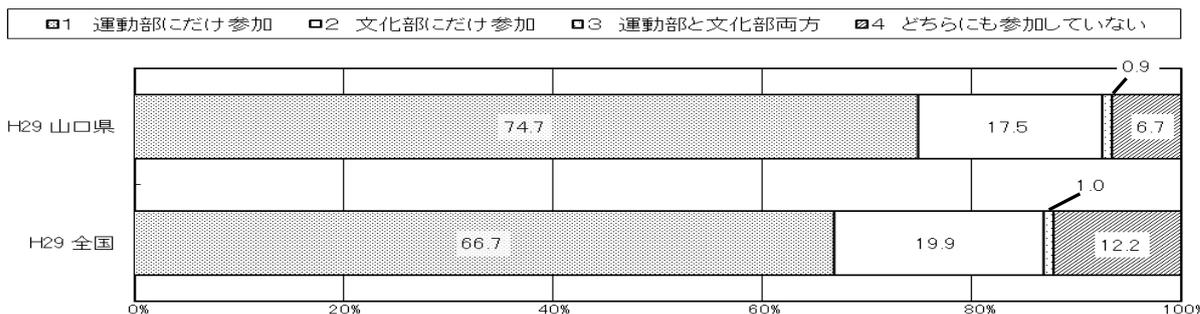


エ 学校の部活動への参加

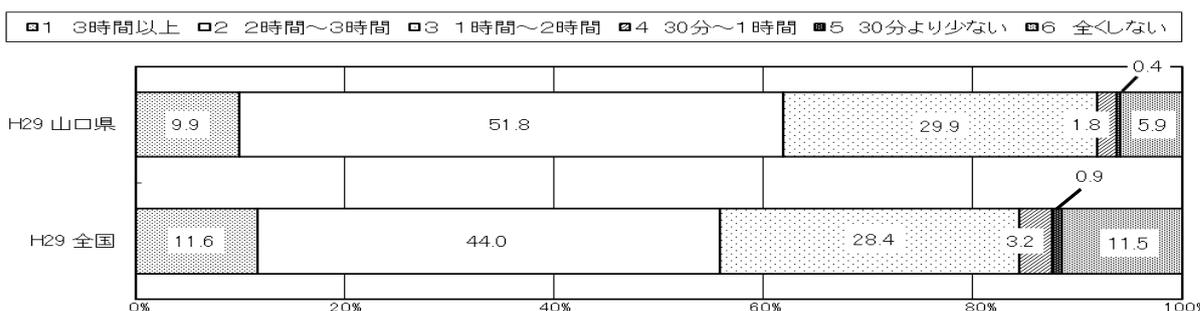
○ 学校の部活動に参加している生徒の割合は、全国と比べて高く、特に運動部への参加の割合が高い。また、平日の部活動の時間は、8割以上が1時間以上3時間未満である。

☞ 学校の部活動に参加している生徒の方が、全ての教科の平均正答率が高い傾向が見られる。また、平日の部活動時間が、1時間以上2時間未満と回答した生徒が、全ての教科の平均正答率が高い傾向が見られる。今後も、部活動の意義が十分発揮されるような適切な部活動運営に留意するとともに、生徒のバランスのとれた生活と成長を確保するなどの配慮が必要である。

【中学校】 (20)学校の部活動に参加していますか



【中学校】 (21) 普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、部活動をしめますか



[教科の正答率との関係]

